

## モンゴル国における 1st International Student Conference 開催 の意義

原田愛弓<sup>1</sup> 永廣卓哉<sup>2</sup> 高岡祐里<sup>3</sup> 佐藤高則<sup>4</sup> 大橋 眞<sup>4</sup>

- 1) 徳島大学医学部栄養学科 2年
- 2) 徳島大学工学部化学応用工学科 2年
- 3) 徳島大学総合科学部社会創生学科 3年
- 4) 徳島大学ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

### 1. はじめに

グローバル化の時代を迎えて、国際的な視野を養うための教育に対する必要性が高まっている。とりわけ東アジアの近隣諸国との関係は重要であり、これらの国々との学生間の交流により友好関係を深める取組は、有意義であると考えられる。文科省の留学生30万人計画においても、これらの東アジアの国々は重要な役割を果たすことが期待されている。東アジアの中でも、中国、韓国との交流は盛んであるが、モンゴル国との交流は、これまでの交流は限定的であった。両国の自然環境は大きく異なるが、文化的な面では、共通する点も多くみられる。モンゴル国では、伝統的な遊牧生活を続けている人も多いが、都市では先進諸国に近い生活をしている人も増えてきており、生活環境の変化が人間関係や健康にどのような影響があるのかが注目される。そのために、持続可能な社会を実現するために必要な視点を養うための体験を行う場としても、好適である。また、そのための教育プログラムを、両国の大学が協力しながら、共同開発することが必要であると考えられる。今回の取組は、このような教育プログラムを開発するために、試行的に実施した。

### 2. 取組について

今回は、モンゴル国で最も歴史のある私立大学であるモンゴルビジネス大学において、徳島大学学生とモンゴルビジネス大学の学生が合同で、2011年9月に1st International Student Conferenceを開催した。このConferenceは、徳島大学とモンゴルビジネス大の学生の企画により、司会役を両国の学生が受け持つなど、学生が中心になって運

営をおこなった。出席者は、徳島大学学生3名、モンゴルビジネス大学学生11名、オブザーバーとして徳島大学とモンゴルビジネス大学教員各2名であった。あらかじめ、取り決めていた「持続可能な社会の実現と環境問題」、「食と栄養」、「モンゴルと日本の伝統文化」の3つのテーマについて、両国の学生が、それぞれ英語で発表を行った。その後で、3つのグループに分かれて、発表演題に関してグループ討論を行った。グループ分けは、学生の希望を尊重して行った結果、伝統文化のグループには、モンゴル側の学生2人と日本人学生1人の小さなグループであったが、環境問題は最も関心が高く、モンゴル人学生5名が日本人学生1名と熱心に議論を行った。最後にグループで話し合われたことに関して、グループの代表者が総括の発表を行った。

また、Conference開催の後日に、モンゴルビジネス大学新入生のための日帰り合宿へ参加した。各専攻の学生グループが設営したテントにおいて、昼食を共にした。また International Student Conference 参加の代表学生2名と徳島大学学生3名が、ウランバートル市郊外の平原においてキャンプをおこなった。このキャンプにおいては、モンゴルのゲルで暖房用の燃料として実際に使用されている馬糞を用いたたき火の体験や、自然の重要性に関する英語での議論をおこなった。また、周辺のゲル生活者を訪問するなど、モンゴルの学生と共に、モンゴルの伝統文化を考える機会を設けた。

### 3. おわりに

今回実施した Conference の準備と実施、および

反省会、キャンプ体験を含めて、約2週間にわたるモンゴル国滞在から帰国した後も、この取組に参加したモンゴルビジネス大学学生と徳島大学学生が、定期的にスカイプを用いてビデオ会議を継続している。このように今後も、両国の学生が交流する機会を設け、交流を継続することにより、国際的感覚が養われると共に、英語でのプレゼンテーション力、コミュニケーション力を始めとして、企画力、創造力などを身につける良い機会となると思われる。また、この Conference の成果を発表する機会を設けて、その意義について議論することにより、徳島大学の他の学生に対しても良い刺激を与えることが期待される。また、会議を開催することにより、英会話実践の必要性を感じる機会になり、学内で開催されているイングリッシュサポートルームやイングリッシュチャットルームに参加するきっかけを作り出す効果があった。今後は、このような取組が、モンゴルだけでなく他のアジア諸国やその他の国々の大学と合同で実施することで、より大きな成果が得られると思われる。